

令和4年度 文京区立窪町小学校 授業改善推進プラン 第5学年

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の学習では、つなぎ言葉や話題にしている内容を考えて、論理的な文章を並べる変えることができている。しかし、文章の全体の要旨を捉えることには課題が見られた。 ・調べたことを報告文として書く学習では、調べたことを羅列することになってしまった児童が見受けられた。文章で分かりやすくまとめられるようにしていくことを指導の課題とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題名や、問いかけの文を手がかりに、内容を意識して読めるようにしていく。また、筆者の主張が文章全体のどの辺りに書かれているかという見通しはもっていたので、内容との関連を捉えられるようにしていく。 ・文章を書く際に、どのように書くと良いかという書き方の共通理解を図っていく。また、書き終えたあとにお互いに読み合せて、良い書き方の文章を見付けたり、自分の書き方を見直したりする機会を設ける。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入では、資料から気付いたことや調べたいことを引き出すことはできたが、その児童の発言から学級全体としての課題作り(学習問題の作り方)の部分で教員側の課題がある。 ・調べ学習においては、教科書・資料集を中心に調べた。また、インターネットで調べる児童もいた。しかし、授業内容とは少しずれた内容を調べる児童が少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題に繋がるような資料や発問、予想される児童の発言を事前に学年で検討していく。児童が自分たちで学習問題を設定できるように学習の仕方の定着を目指す。 ・学習問題⇒予想の段階でよく話し合い、何を調べるのか明確にしていく。調べ学習でインターネットを活用する際は、情報を探すのに時間がかかることや正しい情報を取捨選択しなければならないことを児童が理解した上で活用させる。また、児童が分かりやすい HP を提示する方法も試していく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・学力のばらつきで見ると、2割程度の児童に学力の課題が見られる。底上げをしていくことが課題。 ・計算では、小数のかけ算わり算に課題がある。 ・概数を求める問題に理解が不十分な児童が見られる。 ・数学的な表現に関しては、言語や数のしくみの意味の理解が不十分な点が見られる。きちんと自分の考えを説明できるようにすることが課題になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別に分ける際には、本人の希望もあるが、学力を見極めて分け、指導者側も、その学力にあった指導を展開していく。 ・2分計算等を活用しながら、継続的に計算力の習熟を身に付けさせていく。 ・位を考えさせ、数のしくみを意識する指導をして日常生活と関連付けた授業を行う。 ・授業の中で、誰にでも伝わる「はかせどん」の説明を推奨していったり、まとめや振り返りを活用したりしながら、算数で使う正しい表現を身に付けさせていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・予想を立てるときに、既習事項や生活経験を根拠にして、どうしてそのように予想を立てたのかを考えたり、表現したりしていくことが課題である。 ・児童が振り返りを書くときに学習の感想やわかったことを書くだけになっている児童がいる。自然事象を日常生活と関連付けて書けるようにしていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の導入段階で、既習事項を確認したり、身近な日常生活での経験を共有したりすることで、予想を立てられるようにする。 ・視点を明確にし、繰り返し児童に指導していくことで、学習したことを日常生活につなげていけるような振り返りを書けるようにしていく。 ・安全な実験・観察の技能を身に付ける。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんで授業に取り組んではいるが、動き方や体の使い方などの上達するポイントを意識させることが課題である。 ・友達と作戦を考えたり、自分がどう動けばよいのかを考えたりしながら活動できるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動きのポイントとなる資料(動画や写真等)を活用し、視覚的に体のどこをどう動かせばよいのかを理解できるようにする。 ・友達と見合う活動を取り入れ、自分の動きを客観的に見てもらい、自分の課題がわかるようにする。友達のアドバイスや資料を活用することで自分の課題は何かを考えさせ、毎時間のめあてにつなげていけるようにする。 ・互いを思いやる言葉かけを促す。

道徳	<ul style="list-style-type: none">・発問に対して、しっかり考え、考えたことをワークシートに表している。しかし、そこに止まってしまい、自分の考えをみんなに伝え、議論したり、そこから自分の考えを深めたりする様子が見られない。	<ul style="list-style-type: none">・ICT 機器を活用して、それぞれの児童の考えを誰もがわかるようにしていく。そこから、教師がいくつかの考えを取りあげ、それについて議論していけるようにしていく。
----	---	--